

## 2026 年度実施の民俗芸能

### からくり人形・お囃子（清須市）

### 西六軒町

【概要】名古屋で盛大に行われていた山車まつりを、江戸末期に、この町へも取り入れたのが始まりです。五輦の山車は名古屋型で、からくり人形を載せて、それぞれの演技も人気があり、お囃子も能楽に由来します。

紅塵車のからくりは、中国の「三国志演義」によるもので、大将・関羽が戦いで毒矢を受け、華陀という医者が治療をしている時、どこからともなく鳥が飛んできて舞いを踊り、痛みをやわらげたという内容を演じます。



### 「成車」のお囃子（半田市）

### 成岩第四区囃子保存会

【概要】この祭礼は、嘉永2年（1849年）に現在の原型となる祭礼が実施されていたようです。最初は4組全てが山車を所有する形態ではありましたが、現在は4輦の山車（半田市有形民俗文化財昭和54年指定）の引き廻しや「大獅子小獅子の舞」（愛知県無形民俗文化財昭和42年指定）などが執り行われています。現在の北村の山車「成車」は、大正13年（1924年）に建造され、今年で100周年を迎えています。



### 能見神明宮大祭 お囃子・手踊り（岡崎市）

### 能見神明宮祭礼保存会

【概要】江戸時代より連綿と続く能見神明宮の大祭です。平安絵巻を思わせる行列は、先獅子から最後尾の御神輿・神官車までゆうに200mを超え、御神体とともに全氏子町の御旅所めぐり各町氏子の安泰と五穀豊穰を祈願した後に神社に戻り本祭を迎えます。本祭後には祭事として山車曳が行われ、お囃子を奏でながら氏子町内を巡り、辻々にて山車に備えられた舞台上で子供の手踊りが披露されます。



### 雅楽（豊田市）

### 大沼雅楽会

【概要】雅楽は、日本に古くから伝わる伝統的な宮廷音楽であり、千年以上の歴史を有する芸能です。笙・箏・篳篥・龍笛などの管楽器、箏・琵琶などの弦楽器、鞆鼓・太鼓・鉦鼓などの打楽器を用い、合奏によるゆったりとした旋律と厳かな響きが特徴といえます。大沼雅楽会は、明治26年（1893年）、大沼在住の小嶋長三郎始・小嶋兼次郎・神納満作・吉田嘉十・小幡勇吉・平山京次郎・鈴木治左門・小嶋松次郎の8名が、岡崎市の大樹寺の雅楽人から免許を受け、雅楽を習得したことに始まります。

昭和52年（1977年）には、豊田市の無形民俗文化財に指定されています。



### 牛久保の若葉祭（豊川市）

### 宗教法人 八幡社

【概要】祭りには地元の上若組、西若組、神見組、笹若組の4組の氏子が参加し、二輦の囃子車と神見車、各組のシンボルである「ダシ」（馬簾）、笹踊りが勢揃いし、御神体である獅子頭を中心にして八幡社から天王社までを行列で往復します。この「笹踊り」はこの地方に伝わるもので、唐子衣装を着た3人の踊り手による太鼓舞であり、その起源は朝鮮通信使の影響とも言われています。若葉祭の名称は、牧野成時（古白）が主君今川氏から馬見塚へ城を築城するよう命を受けたのは若宮殿の恵みと喜び、連歌の発句を詠んで若葉に結び、神前に供えて牧野家の武運長久を祈ったことに由来します。

